

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
大正	4	1915	6	29	0	東京市赤坂区原宿にて柳宗悦、兼子夫妻の第一子として生まれる
	10	1921	3		6	柳一家は東京市赤坂区へ移転する
	12	1923	9	1	8	関東大震災のため家屋の一部が破損
	13	1924	4		9	柳家、京都市上京区に転居、錦林小学校入学
昭和	3	1928	4		13	京都府立第一中学校入学
	4	1929			14	柳家、京都市左京区へ転居
	8	1933	3		18	京都府立第一中学校卒業
			5			柳家、東京市小石川区へ転居
	9	1934			19	川端画学校で一年間の浪人生活
	10	1935			20	柳家、東京市目黒区駒場に転居 東京美術学校西洋画科入学
	14	1939			24	『東京美術』（東京美術学校交友会）編集委員となり、へ論文「現代美術に於ける無意識性に就て」を執筆
			11	20		『美術』誌に依頼され、特集「新日本美術文化の動向」を編集
	15	1940	4		25	東京美術学校西洋画科卒業、卒業制作《勝利》
			5			商工省の外郭団体、社団法人日本輸出工芸連合会の嘱託となる
			9	30		『輸出工芸』第5号を編集（7号まで、1941年6月8日発行）
			10			ペリアンに随行し、各地出張
	16	1941	1	30	26	ペリアンに随行して、金沢来訪 石川県庁経済部長室で県内美術工芸品を、宮市大丸で大衆工芸品を参観し、工芸指導所会議室に展示された輸出品百点について50名の工芸家を指導。「日本的なよさを活かし、近代化したものならば必ず外人の趣味にあふとします」31日午前11時3分の列車で赤倉へスキーに向かう
			3	28		シャルロット・ペリアンの企画展「選択・伝統・創造」〔～4月6日、東京／5月13日～18日大阪・高島屋〕に協力する
	17	1942	4		27	輸出工芸連合会退職
			5			坂倉準三建築研究所研究員となる（～1945年）
18	1943	8			28	陸軍報道部宣伝班員として、フィリピンに渡る 坂倉準三建築研究所による日本文化館の設計に協力
20	1945				30	坂倉準三建築研究所を退職
21	1946	5			31	帰国
22	1947	4			32	文化学院文学部及び美術部講師
24	1949	1	13		34	第一回産業意匠展〔～23日、高島屋〕に《コーヒーセット》を出品し、優秀賞を受賞
			6			中小企業庁主催第一回産業意匠展、《コーヒセット》、《テーセット》が中小企業長官賞及び優秀賞受賞
25	1950				35	駒場の自宅傍にアトリエを構え、柳インダストリアルデザイン研究所を開設
27	1952	2	15		37	工業意匠研究会第2回意匠研究会〔工芸指導所資料展示室〕大泉博一郎、佐々木達三、鈴木富久治、柳宗理、小杉二郎、渡辺力、金子徳次郎、東芝の黒瀬英雄、三菱電機の伊東祐義、日本コロムビアの中曽根一夫、所内から剣持意匠部長ほか20数名、JIDA発起人会を組織
			22			第一回JIDA発起人会〔商工会館〕淡島雅吉、伊東祐義、大泉博一郎、金子至、金子徳次郎、黒瀬秀雄、小杉二郎、鈴木富久治、寺島祥三郎、服部茂夫、柳宗理、中曽根一夫、渡辺力 準備事務局を金子室内設計事務所に
			3	30		新日本工業デザイン展〔～4月6日、日本橋三越〕に《コーヒーセット》展示
			7	11		日本インダストリアル・デザイナー協会JIDA発会〔産業工芸試験所講堂〕 山崎幸雄、勝見

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
						勝、猪熊弦一郎、鈴木三男、斉藤豊人、松崎福三郎、豊口克平、藤井左内を招き方針協議、発起人明石一男、淡島雅吉、伊藤祐義、大泉博一郎、金子徳三郎、金子至、黒瀬英雄、剣持勇、小杉二郎、佐々木達三(理事長)、島田重義、白石浩二、新庄晃、鈴木富久治、鈴木道次、鈴木太郎、知久篤、寺島祥五郎、中井太一郎、中曽根一夫、服部茂夫、柳宗理、山口勇次郎、芳武茂介、渡辺力
昭和	27	1952	8	15	37	第1回新日本工業デザイン懸賞審査結果発表 最優秀賞柳宗理「コロンビア電蓄キャビネット」、通商産業大臣賞と賞金100万円 参加商社12、応募総数798(うち模型12点)
			10	10		工業意匠振興講演会〔神奈川県庁会議室〕神奈川県貿易課主催、に小池新二、柳宗理が講演
				20		日本インダストリアル・デザイナー協会創立総会〔東京商工会議所第一会議室〕出席会員21名 会長加納久朗、理事長佐々木達三、理事明石一男、大泉博一郎、金子徳次郎、剣持勇、小杉二郎、鈴木富久治、鈴木道次、柳宗理、渡辺力、監事伊東祐義、金子至 顧問小池新二、勝見勝、会員25名 発会披露宴〔東京商工会議所〕130名出席 事務所文化振興会〔中央区京橋1-2〕
	28	1953			38	名古屋市立工芸高校にて特別講義
			4			柳工業デザイン研究会、文部省より財団法人認可、理事長就任
			5	28		日本インダストリアル・デザイナー協会定期総会、理事長佐々木達三、理事明石一男、大泉博一郎、剣持勇、小杉二郎、鈴木富久治、柳宗理、渡辺力、豊口克平、亀倉雄策、監事：金子至、新庄晃、顧問小池新二、松崎福三郎、勝見勝 会員36名
			7	14		第2回新日本工業デザイン展〔～19日、日本橋三越〕主催毎日新聞社、英文毎日、後援通産省、産業工芸試験所 第1回受賞作柳宗理《電蓄キャビネット》、中鉢孝二《ラジオキャビネット》が展示 巡回展〔8月17日～27日、大阪高麗橋三越〕
			8			プラスチック振興展に《メラミン製水栓ノブ》を出品、工業奨励館賞を受賞
	29	1954			39	前川國男と親交を深め、東京・四谷にある前川の事務所の新築にあたり、柳工業デザイン研究会をその半地下へ移転
			4			女子美術大学非常勤講師に就任(～1968年)「現代造型理論」
			6			国際デザイン協議会代表に就任
	30	1955	4	1	40	「巴里一九五五年芸術への総合展 ル・コルビジエ、フェルナン・レジェ、シャルロット・ペリアン三人展」〔～10日、東京高島屋〕
			6	10		H55展〔スウェーデン〕に《やかん》、《盆》、《碗》が選出展示
				22		大智浩、柳宗理、大隈為三講演〔金沢美術工芸大学第一普通教室〕
			11	14		三井精機工業56年型三輪車オリेंट号完成発表会〔～20日、ブリヂストンビル1階ショールーム〕
	31	1956			41	吉田璋也の案内で、牛の戸焼脇窯(現、因州中井窯)を訪れる
			2	7		最新工業意匠講座〔～10日、東京商工会議所講堂〕主催日本インダストリアル・デザイナー協会、協力東京商工会議所。定員100名、講師豊口克平あいさつ、伊東祐義「販売政策とデザイン」、明石一男「インダストリアル・デザインの頼み方」、富谷龍一「エンジニアとデザイナー」、剣持勇「よいデザインと売れる商品」、黒瀬英雄・皆川正「照明器具類のデザイン」、真野善一「電気器具類のデザイン」、小杉二郎「機械器具類のデザイン」、淡島雅吉「ガラスおよび陶磁器のデザイン」、柳宗理「食器と厨房器具類のデザイン」、佐々木達三「プラスチック製品のデザイン」、亀倉雄策「容器、包装、宣伝とデザイン」、豊口克平「椅子のデザインの基礎」、鈴木富久治「量産家具のデザイン」、大泉博一郎「船舶、車両の家具デザイン」、寺島祥五郎「色彩デザイン」来場150名
			4	1		金沢美術工芸大学嘱託教授(非常勤)(～1965年3月)
				17		第2回産業デザイン講習会〔～18日、名古屋商工会議所〕挨拶斎藤信治、豊口克平、真野善一「電気器具のデザイン」、柳宗理「食器類および厨房器具のデザイン」、佐々木達三「プラスチック製品とデザイン」、安田彦二郎「陶磁器のデザインの実際」、松本政雄「中部地区のデザイン」理論的よりも実際的な問題を中心に講演
			6	1		柳宗理工業デザイン展〔～12日、銀座松屋〕スプーン、物差し、バタフライスツール、三輪ト

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
						ラックに試作品ほか
昭和	31	1956	6	26	41	第1回工業デザイン・アメリカ視察団羽田空港を出発(～6週間)主催日本生産性本部、団長小池新二、副団長豊口克平、参加松本政雄、佐々木達三、平賀潤二、我妻栄、鈴木富久治、渡辺力、淡島雅吉、柳宗理、三輪智一、真野善一 渡辺は訪米後、ロンドン・デザイン会議出席、ヨーロッパ歴訪後、帰国
				27		第6回アスペン国際デザイン会議でパネリストとして発言
			10	11		第2回ミラノトリエンナーレ展実行委員会〔外務省〕に出席、トリエンナーレ議長フェラリスの伝言を伝える
			11	14		三井精機工業三輪車オリエント号完成発表会〔～20日、ブリヂストンビル1階ショールーム〕
				26		工業デザイン専門視察団帰朝報告会〔電機会館〕共催JIDA、日宣美、デザイナークラフトマン協会、国際工芸美術協会、講演小池新二「アメリカの工業デザインを見て」、平賀潤二「市場と工業デザイン」、豊口克平「アメリカ市場と輸出雑貨の新分野」、柳宗理「新しい工業デザインの技術およびアスペン会議の報告」
	32	1957	2	22	42	特許庁、意匠奨励審議会(委員長特許庁長官、委員伊藤俊夫、勝見勝、小池新二、坂倉準三、佐々木達三、柳宗理ら15名)を設置
				7	27	第11回ミラノ・トリエンナーレ〔～11月4日〕大賞・河井寛次郎《花器》金賞・陶哉《茶碗》、鈴木兵作《黒漆飯櫃及しゃもじ》、川上治助《二月堂盆》、渡辺力《籐椅子》、柳宗理《コーヒーセット》、銀賞・丸和商店《土瓶》、ミラノ展日本側実行委員会《企画及び会場展示》
	33	1958			43	バタフライ・スツールがニューヨーク近代美術館パーマネントコレクションに選定
			11	28		日本橋白木屋にゴールデン・デザイン・ルーム開設(40坪)、Japan Design Round-tableによる商品選択ディスプレイ柳宗理
				28		柳宗理ニュー・デザイン陶器展〔～12月20日、銀座松屋〕ポット、ミルク入れ、カップ、皿など白陶の作品展示、醤油さし改良型と機能実験結果も展示
	35	1960	2	13	45	世界デザイン会議企画分科会副委員長に任命
				5	11	世界デザイン会議(～16日、東京)
				6	7	英国展〔～12日、日本橋白木屋〕CoID、リバティ、ウーランズ百貨店と協力して生活用品類を展示、日本から柳宗理が渡英して作品選定
				7	16	第12回ミラノトリエンナーレ〔～11月4日〕テーマ「家庭と学校」の日本出品で、坂倉準三監修のもと家具(長大作)、学校関係(柳宗理)が出品される。
			10	3		カッセル国立デザイン専門学校講師(～61年2月28日)
				5		アラスカ、アンカレッジ通過
				5		羽田より出国
			11	3		バーゼル到着(スイス)
	36	1961	2	15	46	「作品と教育」展〔～25日、カッセル〕
				3	11	「Japan Form」展〔～4月16日、カッセル・ベルビュー宮殿〕柳宗理企画
				4	27	カッセル市滞在許可(～6月20日)
				5	3	柳宗悦、脳溢血により死去
				7	1	柳宗理、羽田に帰国
				8		夏、島根県・出西窯へ父の骨壺を作りに赴く(8月は推定、真夏であったとの多々納証言)
	39	1964	6	27	49	第3回ドクメンタ〔～10月5日、カッセル〕に招待出品 《灰皿》(松村、1953)、《スツール》(天童、1956)、《黒釉ティーポット》(安藤、1956)(ママ)
			11	17		講演「今日の産業デザインについて」〔愛知県産業貿易館第二教室〕
				20		第9回デザインギャラリー展「折紙・組木のデザイン」〔～12月9日、銀座松屋〕を企画担当
	40	1965	5	14	50	第15回デザインギャラリー展「ブラウン社の電気製品」〔～6月16日、銀座松屋〕を企画担当
			10	15		第20回デザインギャラリー展「デザイナーのタッチしないデザイン」〔～11月10日、東京・銀

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
						座松屋]を企画担当
昭和	41	1966			51	国際デザイン会議(フィンランド・イバスキラ)に日本代表として出席
	42	1967	3		52	金沢美術大学教授を退任
			11	10		日本デザインコミッティー主催「German Design To-day」展〔～15日、銀座松屋〕を勝見勝とともに企画担当、カッセル国立デザイン専門学校も紹介
	43	1968	9	13	53	第52回デザインギャラリー展「柳宗理 歩道橋計画案」〔銀座松屋〕を企画担当
	47	1972			57	国際ペンクラブ会議(京都)において「デザインと日本の伝統」講演
						柳デザイン(株)(現、ヤナギショップ)設立
			5	19		第109回デザインギャラリー展「＜日本の家具シリーズ＞寿商店」〔～31日、銀座松屋〕を企画担当
				8	11	第112回デザインギャラリー展「木製玩具」〔～23日、銀座松屋〕を企画担当
	48	1973			58	「国際クラフト展」〔カナダ〕審査委員を務める
	50	1975			60	「シンポジウム20世紀の様式」にて講演(京都)
						中部デザイン協会に招かれ講演「今日の産業デザインについて」
			10			「柳宗理のデザイン展」〔銀座・松屋〕
				24		第175回デザインギャラリー展「柳宗理ストリートファニチャー」〔～11月12日、銀座松屋〕を企画担当
	51	1976	2	20	61	第180回デザインギャラリー展「ガウディ・その建築の構想」〔～3月10日、銀座松屋〕を企画担当
	52	1977	1	21	62	第196回デザインギャラリー展「鳥の凧」〔～2月9日、銀座松屋〕を企画担当
			7	17		第205回デザインギャラリー展「江戸火消しの半纏」〔～27日、銀座松屋〕を企画担当
				12		大阪日本民藝館館長(～2011年3月)
	53	1978			63	ローマ・アカデミア・ティベリアーナの称号を受ける
			1			日本民藝協会会長に就任(～2003年7月)日本民藝館館長に就任(～2006年8月)
	55	1980	6	12	65	「デザイナー・柳宗理・1950年-1980年の作品」展〔～7月21日、Padiglione d'Arte Contemporanea di Milano〕開催
	56	1981			66	紫綬褒章受章
	58	1983			68	ボンベイ工科大学デザインセンターに招聘
			6	11		「柳宗理デザイン展」〔～24日、イタリア文化会館ホール〕イタリア文化会館主催
				29		『デザイン 柳宗理の作品と考え』(用美社)刊行
	59	1984	6	1	69	母・兼子自宅にて心不全のため死去
				8		『民藝』巻頭に「新しい工芸 生きている工芸」の連載(～1988年8月)
	61	1986			71	世界クラフト会議(カナダ)で講演
	62	1987			72	旭日小綬章受賞
	63	1988	8		73	「柳宗理デザイン」展〔東京・有楽町西武クリエイターズギャラリー〕開催
平成	2	1990	10	27	75	第6回北陸伝統産業学会研究発表大会記念講演「民芸と伝統産業とデザイン」〔金沢美術工芸大学〕
	4	1992			77	東武百貨店デザイン・トゥデイ・インターナショナル・コミッティのメンバーとなる
						国井喜太郎産業工芸賞/柳宗理「創成期よりデザイン活動を実践、日本民芸館を通じて文化交流に尽力」、中川千年「40数年にわたり各地の地場産業の振興に尽くした功績」、川上元美「近代家具生産に工芸の造形性と手法を導入するなど、わが国家具デザインの水準を世界的に高めた功績」
						沖縄県立芸術大学美術工芸楽部非常勤講師

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
平成	5	1993			78	日本民藝展〔ローマ日本文化会館〕ディスプレイを手掛ける
	6	1994	9	25	79	「Japanese Design」展〔～11月20日、フィラデルフィア美術館〕にバタフライ・スツール他9点出品
	8	1996	4	1	81	沖縄県立芸術大学客員教授(～97年3月31日)
	9	1997	6	25	82	「新作椅子シリーズ 三角スツール(BC工房)」〔～7月8日、リビングデザインギャラリー〕
			7	5		トークセッション「デザイナーは生涯現役だ」〔新宿・リビングデザインセンターOZONE〕長大作、渡辺力、柳宗理による
	10	1998	4	18	83	「柳宗理のデザイン—戦後デザインのパイオニア」展〔～6月1日、池袋・セゾン美術館〕
	11	1999	10		84	「柳宗理 椅子のコレクション展」〔東京・ギャラリーサカ〕
	12	2000	4	1	85	金沢美術工芸大学客員教授(～2011年12月25日)
			6			「柳宗理 生活の中のデザイン」展〔東京・リビングデザインギャラリー〕開催
	13	2001	10	20	86	「柳宗理の眼と手」展〔～12月2日、鳥取民藝美術館〕
	14	2002	1		87	沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師
			7	1		「柳宗理展」〔～31日、浜松・静岡文化芸術大学〕
			11			文化功労者に選定
	15	2003			88	民藝の心をつなぐ—柳宗悦～柳宗理へ 安部榮四郎～安部信一郎へ—展〔安部榮四郎記念館〕
			1			柳宗理デザイン展〔東京・mono gallery〕
			4	12		「仙台デザインウォーク」〔～29日、せんだいメディアテークほか〕「柳宗理デザインとプロダクション」展ほか
			6	19		「Yanagi Catalogue 2003 柳宗理さんのデザインを使ってみませんか?」展〔～7月15日、リビングデザインセンターOZONE〕現在でも購入可能な日用品を一堂に展示
			29			『柳宗理 エッセイ』出版(平凡社)
			8	10		「柳宗理 うまれるかたち」展〔～30日、金沢市民芸術村〕柳宗理デザイン金沢展実行委員会主催
	18	2006			91	「柳宗理 デザイン 生活道具」展〔熊本国際民芸館〕
	19	2007			92	「出西窯と柳宗理～黒土瓶の仕事をめぐって」展〔ギャラリーTOM〕
			1	19		「柳宗理展—生活の中のデザイン」展〔～3月4日、東京国立近代美術館〕
	20	2008			93	英国王立芸術協会よりロイヤルデザイナー・フォー・インダストリー (Hon RDI) の称号を授与
	12	2010	1		95	沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師(～3月)
	23	2011	12	25	96	逝去、正四位旭日重光章授与
	25	2013	8	27	98	「柳宗理のみてきたもの」展〔～11月21日、日本民芸館〕
	26	2014	9	9	99	「柳宗理のみてきたもの」展〔～11月30日、豊田市民芸館〕